

当事者の方に
聞きました

日々生活する中で 思うこと



市内に住む障がい当事者の方が、日々どのようなことを感じているのかを取材しました。生の声を聴くことで、柳川市に必要なものを考えるきっかけになればと考えています。

自己選択できる情報を

身体障害者手帳1級所持・
40代・男性

両親にはいつも介助してもらい、とても感謝しています。その親亡き後、自宅での生活が厳しくなるかもしれないということが一番の心配事です。できれば施設には行かず、自宅での生活を続けたいと思っています。普段は自宅で過ごすことが多く、自宅では在宅就労に取り組んでいます。自宅に来てくれる支援者と話すのが楽しみの一つです。話すことが好きなので、障がいの有無に関わらず、いろんな人と交流できる場所があればいいなと思います。ただ、外出することに労



力を要します。飲食店のテーブルは車いすの高さに合うのか、使用可能なトイレがあるか、バリアフリー環境になっているかなど、不安な要素がたくさんあります。費用面で気軽に外出できるのであれば、好きなスポーツ観戦にも行きたいです。

やりたいことや将来に備えることを考えていますが、情報を得ることが難しく、どこに情報があるのかわかりません。自分の生活を自分で考えるための情報を知ることができれば、「自己選択」できる幅も広がってくると思います。



60代男性の挑戦

「施設から一人暮らしへ」

身体障害者手帳2級・
精神保健福祉手帳2級所持
60代・男性

自宅で一人暮らしをしていた時、これから先一人で生活することに不安を感じていました。そんなとき、「入所を考えていた施設が所在する地域は、お米が美味しい」とテレビで知り、『施設で24時間の介護を受けながら、美味しい物を食べて過ごすことで長生きできるのではないか。みなさんと話を楽しく生活できるのでないか。』と思います。障がい者施設に入りました。

施設の支援者は良い方ばかりで、演劇を見る機会もあり楽しかったです。施設に入る前に体験していたのですが、実際に施設で生活

してみると、自分のペースで過ごすことが難しく、みなさんとお話をする機会が少なく、イメージと違っていました。このまま施設で過ごすよりも、静かな環境で自分のペースで過ごす方が自分に合うと分かり、金銭面の不安はあったものの、一人暮らしをすることを決めました。

一人暮らしを始めて、自宅に友人を招き、久しぶりに会えたことで、自分が思う友人との付き合い方を見つけたことができました。これからは、大好きな映画にも行きたいです。ありがたい事に、色んな方に支援して頂きながら、自己実現することができて幸せです。

